



編集 SEF 事務局
 連絡先 080-8865-0951
 URL <http://sef-jpn.org>

巻頭のことば :技術の進歩に取り残されないために: 専務理事 黒澤東雄

テクノロジーの急速な進歩に伴い、AI(人工知能)は我々の日常生活のいたる所に浸透し始めている。無意識の内にもその恩恵に大いに浴しているという事だ。とはいえその普及している社会システムの成り立ちや機能をある程度は理解し使いこなせることが生活上の必須要件となっている。知ろうとする意欲や使う勇気が無ければ、他人との連絡手段が作れず欲しい商品の購入もできない、そんな時代になっている。SEF 組織内活動の一つ、JJ 研のキャッチは「今を知る」「常に学ぶ」であり、その時話題の時事問題や技術課題を研究し議論することと云う。我々シニア世代会員が中心の活動組織では、残念ながら「世界が最も注目する最先端技術トレンド10」などという開発活動に加わるなどは到底あり得ない事であるが、この変化が速い時代においてこそ、新たな知識や技術をどん欲に学び時代の変化に上手く適応することが勝ち残る秘訣だと言える。ゲームチェンジが進む今、SEF の業務支援事業部ではいち早くその潮流を読みその備えに万全を期す必要がある。我々のリスキングに向けた意欲と行動がまさに本当に望まれる所以である。そのような状況下、新たに発足した「生成AIの活用の会」はまたと無い最適な時期に多くの会員の賛同を得て立ち上げられた。今後の発展が大いに望まれ期待される活動の一つとなった。

10 月度理事会より (第 241 回 10 月 25 日) 事務局

1. 第 22 期上期中間決算 →可決承認	5. NPO 保険団体総合補償制度の更新終了 →報告了承
2. TKS 社との業務委託契約期間の延長 →可決承認	6. 2023 年 9 月度月次会計報告 →報告了承
3. ACL 社での触媒評価アドバイザー →可決承認	7. 第 22 期上期受託案件収入配分 →報告了承
4. 職業大学でのリチウム二次電池講座業務委託→可決承認	

事業報告 (業務支援事業部(GS)・C1・C3) 担当理事 佐立弘臣

現在、物価高騰、深刻な人手不足など、企業は厳しい状況にあります。またコロナ禍で働き方はリモートワークの普及や仕事のオンライン化など大きく変化しました。企業の長期的な課題として SDGs・ESG・カーボンニュートラルなど、持続可能性への取り組みなどがあります。このような社会環境・経営環境の変化は企業に大きな影響を与えています。目覚ましく事業環境が変化中、企業は新たな事業目標を立て、それをいかに実現していくかが最大の課題です。新たな事業目標を従業員全員で共有して業務を推進する必要があります。GS は事業目標共有の手段として、「戦略マップ」を活用することを勧めています。「戦略マップ」は目標と個別プロジェクトの関係を整理することができます。課題は企業だけではなく、地方都市は人口減、高齢者増、労働者不足などの課題があります。それを解決するために、新しい街づくりが求められています。現在、S 市で街づくりの手段として「戦略マップ」を活用し、地方創生の支援を続けています。これからの地方創生の一助になればと思っております。

SEF サロン (第 131 回案内) 担当理事 白崎善宏

《 第 131 回案内 》
 日時 :11 月 13 日(水) 15 時 00 分~16 時 30 分 Zoom 方式
 講演題目 :「ゲノム編集技術の民主化により人々の暮らしを豊かに」
 講師 : 竹澤慎一郎 (株式会社セツロテック 代表取締役社長)
 講演概要 : ゲノム編集とは、自在に生物の遺伝子情報を切ったり貼ったり、自在に編集するかのよう修正できる技術で、医療分野、農業畜産分野、化学分野での開発が進んでいる。セツロテックでは、研究支援事業と PAGEs 事業により、ゲノム編集技術をこれらの分野に利用できるよう促している。例えば研究支援事業では、ゲノム編集マウス、ゲノム編集細胞を疾患モデルとして製薬会社が医学研究に活用いただいている。また、PAGEs 事業では、動物、植物、微生物のゲノム編集の受託開発サービスを提供しており、農業、畜産、化学、食品分野での利用を提案している。これらの活動を通して、人類と地球の発展に貢献したいと努力している。

10 月度会員動向 事務局

会員の入退会 なし	10 月末日現在の会員数 正会員 : 24 名、 準会員 : 47 名 賛助会員 : 5 社
--------------	--